

## 山陰の 旧石器時代・ 縄文時代

# 山陰の旧石器時代・縄文時代

～山陰の曙を求めて～



山陰史跡整備ネットワーク  
會議事務局

島根県教育庁文化財課 〒690-8502 島根県松江市殿町1番地  
TEL.0852-22-5880 FAX.0852-22-5794  
鳥取県地域づくり推進部文化財局 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220  
とっとり弥生の王国推進課 TEL.0857-26-7932 FAX.0857-26-8128



発行:2022年3月

山陰史跡整備ネットワーク会議 検索

山陰史跡整備ネットワーク会議



こちらからPDF版を  
ダウンロードできます。

## はじめに

旧石器時代・縄文時代は、私たちの歴史の始まりを探る上で欠くことのできない時代です。山陰両県では、これまで発掘調査などで見つかった土器や石器は、旧石器時代約140遺跡以上、縄文時代約1,200遺跡以上で確認されています。

発見された土器や石器等の多くは現在、それぞれの地域の博物館、資料館等で見学することができます。本書を片手に、山陰地方の旧石器時代・縄文時代に思いを馳せていただければ幸いです。

なお、現地の状況については各遺跡紹介に記載されているお問合せ先にご連絡ください。

## 年表

年代	時期区分	主な出来事	
約3万5,000年前	旧石器時代	後期	山陰地方に人類がやってくる 狩りをしながら移動生活をする 隠岐の黒曜石が利用される 狩りの道具にナイフ形石器や台形様石器を使用する 鹿児島県の姶良カルデラが大噴火を起こし、山陰地方に堆積する 狩りで使う槍先に細石刃を使用するようになる 狩りで使う槍先に尖頭器を使用するようになる
約3万年前			
約1万6,500年前	縄文時代	草創期	土器を使用するようになる 次第に温暖化が進む
約1万1,500年前		早期	島根県の三瓶山が縄文時代最初の噴火を起こす 山陰地方で弓矢が普及する 鹿児島県沖の鬼界カルデラが噴火し、火山灰が山陰地方に堆積する
約7,000年前		前期	海水面の上昇(縄文海進)が最も進む 山陰地方の沿岸部に潟湖が形成されるようになる
約5,500年前		中期	島根県の三瓶山が縄文時代2回目の噴火を起こす
約4,400年前	後期	後期	島根県の三瓶山が縄文時代3回目の噴火を起こす
約3,200年前		晩期	一部でイネ科植物の栽培がはじまる

※縄文時代の始まりと終わりについては諸説あります。

## 山陰の旧石器時代

旧石器時代は、人類の誕生から土器が発明されるまでの数百万年間に及ぶ、人類の歴史の中で最も長い時代です。当時の人々は、主に石を打ち欠いてつくる「打製石器」を道具に使い、獲物を追って移動を繰り返す生活を送っていました。

山陰地方では、島根県奥出雲町の原田遺跡や鳥取県大山町の下甲退休原第1遺跡、豊成叶林遺跡などで約3万～3万5千年前にさかのぼる「台形様石器」や「ナイフ形石器」等を含む資料が確認され、その後、各地で活動の痕跡が見つかっています。

旧石器時代は氷河期にあたり、最も寒い頃には隠岐が陸続きだったと言われています。隠岐では黒曜石を採集することができ、黒曜石は様々な場所に持ち出されました。遊動する過程で黒曜石のほか山陰の各地で獲得できる玉髓や安山岩なども利用されています。

氷河期が終わりに近づく約1万3千年前頃になると、「細石刃」が現れます。これは、効率的に道具を作れる画期的な技術革新で、このとき生まれた「押圧剥離」という技術は、縄文時代の「有茎尖頭器」や「石鏃」の製作に受け継がれていきます。

## 山陰の縄文時代

縄文時代には、気候の温暖化によって海平面の上昇や植生の変化、小中型獣の増加など、環境が大きく変わりました。山陰地方の縄文入たちは、竪穴建物などの住居が数棟程度の小規模な集落で定住生活を営み、狩猟・採集・漁撈を行なながら暮らしていました。

狩猟には、弓矢や落とし穴が用いられました。獲物となったのは、シカ・イノシシなどの小中型獣で、追い込み獵や罠獵が行われました。また、山に自生するドングリ・トチの実・ヤマイモなども重要な食糧とされました。これらの調理・保存には、土器や貯蔵穴が用いられました。漁撈には、ヤスによる刺突漁や石錘を用いた網漁が行われたほか、シジミやサザエなどの貝類も利用されました。この他、縄文時代の終わり頃になるとイネ科植物の栽培も行われていたと考えられています。

他地域との交流も盛んに行われました。山陰では、関東や北陸、九州の影響を受けた土器、佐賀県や大分県の黒曜石、香川県で産出するサヌカイトなどの石器素材や、東北からもたらされた土偶などが出土しています。

集落の周辺にはお墓が作られました。地面に穴を掘って埋葬する土坑墓や上部に石を並べた配石墓、土器を使った土器棺墓などがあります。この他、土偶や石棒といった呪術具や、耳飾りや貝輪などの装飾品も作られ、縄文時代の人々の精神文化をうかがうことができます。

## 石見地域

### 石見地域の旧石器時代・縄文時代

石見地域では、中国山地の山間部に多くの遺跡が見られます。特に縄文時代の遺跡は調査例が豊富で、中期から後期初めにかけての並木式・阿高式と呼ばれる滑石の入った土器や、佐賀県腰岳産の黒曜石、大分県姫島で採れる乳白色の黒曜石など、九州地方との関連を示す遺物が出土しています。



2



### 新槻原遺跡 [市内最古の旧石器時代遺跡]

益田市

匹見川と赤谷川が合流する狭い河岸段丘上に営まれた遺跡で、出合原と呼称される国道191号沿いの道川公民館隣に立地し、標高約474mを測ります。遺跡は約2,400m<sup>2</sup>の範囲に及ぶと推測されますが、このうちの16m<sup>2</sup>が昭和60(1985)年に調査されました。

地表から約1.2m下の層(第7層)で、姶良Tn火山灰とともに人工的に割った石片や木炭が確認されました。この層は、火山灰が降った年代や石材の特徴から後期旧石器時代の層と考えられ、20,000年以上も前からこの地に人が住んでいたことが分かったのです。

また、地表下約0.7mの層(第5層)からは縄文時代早期の土器、地表下0.1~0.3mの層(第2・3層)からは縄文時代前期の土器や石器とともに、アカホヤと呼ばれる火山灰も確認されています。

新槻原遺跡は、後期旧石器時代から縄文時代前期までを含んだ層と火山灰の関係が県下で初めて分かった例として、また遺物も層準どおりに発見された例として貴重であり、平成2(1990)年に県史跡に指定されました。現地には説明板が設置してあり、見学できます。

【所在地】益田市匹見町道川出合原

【お問合せ】益田市教育委員会

TEL.0856-31-0623



遺跡の近景



### 中ノ坪遺跡 [県境に営まれた縄文前期集落]

益田市

遺跡は1,000m級の山々に囲まれた広島・山口両県と接する三葛地区の水田にあり、紙祖川に支流の三葛川が合流する僅かな河岸段丘上に立地します。

発掘調査は平成10(1998)年度に実施され、縄文時代前期の多くの遺構・遺物が発見されました。このうち、遺構は竪穴建物跡(1棟)、土坑などが検出されました。墓と推定される70基に及ぶ集石遺構は特に注目されます。

また遺物では、石器類は石槍・石銛(狩猟道具)、磨製・打製石斧などが出土しており、石材の大半は安山岩製とみられ、近くの冠山産(広島県)の可能性が高いものです。

土器類の中には、轟・曾畠式といわれる九州系のものもみられ、当該期の文化伝播または墓制など多くの情報を探してくれる遺跡です。

【所在地】益田市匹見町紙祖三葛

【お問合せ】益田市教育委員会

TEL.0856-31-0623



竪穴建物跡と配石遺構

3

## 石見地域

市  
指  
定

### うえのはらいせき 上ノ原遺跡〔押型文土器の発見〕

益田市

遺跡は匹見川右岸の南側にある段丘面中位に位置しており、南側に走る県営農道の改良工事に伴って、平成5(1993)年に発掘調査が実施されました。

遺跡は、黒色土と黄色土が互層状に堆積しており、第4層上面と第5層上面から見つかった遺構や、第2層から第5層までの各層からの土器や石器などの遺物から、縄文時代早期の遺跡と考えられています。

出土した土器は押型文土器といわれるもので、山形文や楕円文、格子目文などを特徴とするものです。なかでも、岡山県の黄島式土器が出土の多くを占めています。このほか、数点の打製石斧や多くの石器剥片などの特徴的な石器類も

出土するなど、この時期の生活様相を理解する上で欠くことのできない貴重な遺跡です。

至近の道路脇には説明板が設置され、見学が可能です。

【所在地】  
益田市匹見町匹見萩原  
【お問合せ】  
益田市教育委員会  
TEL.0856-31-0623



遺跡の近景



出土した押型文土器

市  
指  
定

### いしがつぼいせき 石ヶ坪遺跡〔九州とつながる縄文集落〕

益田市

匹見総合支所から紙祖川沿いに約2km遡った七村川との合流地に位置する石ヶ坪遺跡は、標高約270mを測る主要地方道吉賀匹見線沿いの原野(旧水田地)にあります。現地には説明板が設置され、見学可能な場所となっています。

平成元(1989)年度から平成18(2006)年度にかけて、益田市教育委員会や島根大学によって計8次まで実施された発掘調査によって、縄文集落の様相が明らかとなりました。

8棟以上に及ぶ堅穴建物跡、祭祀関連と想定される人為的な配石、食料貯蔵穴などの遺構群が検出されるとともに、石器類は、石鏃、石錘、打製石斧などの生活に密着した一通りの道具類が多量に発見されています。

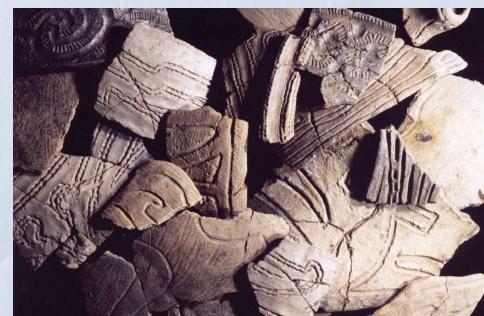
土器類では、瀬戸内系の縄文土器を最多として、並木式・阿高式などの九州系土器なども発見され、出土遺物の総数は3万点をゆうに超えています。

これらのことから、縄文時代中期中頃から後期前半に盛行する定住的な集落の営みが明らかとなり、当時の縄文人の生活様相や精神文化を教えてくれる貴重な発見例となりました。

【所在地】益田市匹見町紙祖元組 【お問合せ】益田市教育委員会/TEL.0856-31-0623



発掘調査風景(平成元年度)



出土した土器群



出土した石器群



## みずたのかみいせき 水田ノ上遺跡〔県内最大級のストーンサークル〕

益田市

紙祖川河畔の河岸段丘上に立地する水田ノ上遺跡は、標高約270mを測る水田に位置し、その範囲は主要地方道吉賀匹見線の一部を含む150m四方に及ぶと推測されます。

最初の発掘調査は、昭和58(1983)年に実施され、石鏸や打製・磨製石斧などの石器類をはじめ、縄文時代晩期を中心とした土器が出土し、とくに硬玉製勾玉や円盤型土製品などの呪術具が注目されました。

また、平成2(1990)年の調査(水田ノ上A遺跡)では、直径1m前後を測る配石遺構が数十基見つかり、それらが約10mの幅をもって直径約80~100mに及ぶ環状列石(ストーンサークル)をなしていると推定されます。当該期の呪術具や多くの土器の出土状況から、墓地あるいは祭場であったと考えられ、西日本では初めての貴重な発見となりました。

こうした調査により、遺跡の規模や非日常的空間としての機能などが明らかになったことは、当該期における縄文人たちの精神文化を知る上でも貴重です。

なお遺跡の南西端からは、弥生時代中期前半の青銅器とされる細形銅戈の剣先も発見されており、また現地には道路脇に説明板を設置しています。

【所在地】益田市匹見町紙祖荒木

【お問合せ】益田市教育委員会/TEL.0856-31-0623



女性を象った土偶



環状列石の様子



## よれいせき ヨレ遺跡〔縄文人の呪術具・鳥形土製品の発見〕

益田市

遺跡は匹見町の中央部を流下する匹見川が広見川と合流する河岸段丘の右岸に立地しています。遺跡の東側には国道488号を挟んでイセ遺跡があり、そこには両遺跡を紹介する説明板が設置されています。

ヨレ遺跡は平成3(1991)年に圃場整備事業に伴って発掘調査が実施されたもので、縄文時代後期末から晩期初頭の配石を伴う土坑群やトチの実の貯蔵穴(1ヶ所)、小規模の竪穴建物跡(1棟)などが発見されました。

また、配石を伴う土坑群は40基余りを数えますが、これらに伴って鳥形土製品や土偶、円盤型土製品、線刻石、管玉、白玉などの呪術具も発見されました。

縄文人の生活や精神文化を探ることができる貴重な遺跡です。

【所在地】益田市匹見町匹見半田

【お問合せ】益田市教育委員会/TEL.0856-31-0623



鳥形土製品

検出された配石遺構



## いせいせき イセ遺跡〔縄文・弥生時代の複合遺跡〕

益田市

ヨレ遺跡の東側にあって国道488号に隣接するイセ遺跡は、平成3(1991)年に発掘調査が実施され、縄文時代後期半ばから弥生時代前期にかけての複合遺跡であることが明らかになりました。

遺跡の上層からは弥生時代前期の竪穴建物跡や土器など、また下層からは縄文時代後期を中心とする多くの配石を伴う土坑(墓坑)や土器、石器、骨片などが確認されています。

こうした配石を伴う土坑などの検出は、当該期の墓制のあり方を知る上で貴重であり、またヨレ・イセ遺跡出土土器の新旧関係から見ると、イセ遺跡の人が縄文時代後期の後半に西側のヨレ遺跡に移動した可能性が窺えます。

【所在地】益田市匹見町匹見半田

【お問合せ】益田市教育委員会/TEL.0856-31-0623



出土した縄文土器



## おおかげいせき 大蔭遺跡〔住居跡や祭祀の場が発見された集落跡〕

津和野町

大蔭遺跡は道の駅「津和野温泉なごみの里」がある津和野川沿いの段丘一帯に広がっています。平成10年からおこなわれた発掘調査では縄文時代後期中葉の石圓炉を伴う竪穴建物跡が2棟発見されています。また配石遺構や有孔円盤・線刻礫・石棒などの呪術具も発見されていることから、祭祀にかかる場も存在していたと考えられます。発掘調査地はすでに県道の下となっていますが、遺跡は一帯に広がっていると推定されます。出土品の一部は津和野町郷土館に展示されており、見学することができます。

【所在地】津和野町鷺原

【お問合せ】津和野町教育委員会/TEL.0856-72-1854



石圓炉をともなう竪穴住居跡

## 石見地域

### ひなしいせき 日脚遺跡〔周布地域を代表する複合遺跡〕

浜田市

周布平野北東の丘陵上に位置する遺跡で、住宅団地建設に伴い発掘調査が行われました。縄文時代の遺構としては、集石炉、落とし穴、貯蔵穴が検出されており、これらは出土した土器から縄文時代早期と考えられています。集石炉は、約1m四方に扁平な石材を集積させたもので、上面が平らに揃うように設置されており、石材の表面は焼けて赤黒く変色していました。

現地は住宅団地となっていますが、説明板が設置されています。

【所在地】浜田市日脚町  
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608

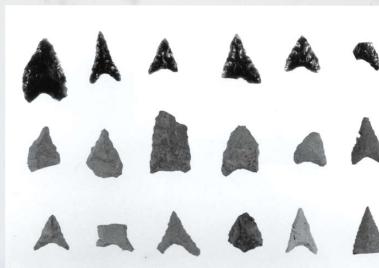


### いわつかにいせき 岩塚II遺跡〔石器石材から見える幅広い交流〕

浜田市

浜田広島自動車道建設に伴い発掘調査が実施された遺跡で、細い谷の入口部に立地しています。縄文時代前期前葉から後期前葉までの土器や多くの黒曜石製・安山岩製石器も確認されました。石材の分析によれば、黒曜石は島根県隱岐産の他にも、佐賀県腰岳産、大分県姫島産、安山岩は広島県冠山産や香川県金山産があることが判明しており、縄文時代の幅広い交流がうかがえます。現在は道路になっており、見学できません。

【所在地】浜田市金城町今福  
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



### ふるやしきいせき 古屋敷遺跡〔仁万平野の最奥部に眠る縄文集落〕

大田市

仁万平野を流れる潮川の左岸に営まれた遺跡です。平成25年度から27年度にかけて発掘調査が行われ、縄文時代晩期を中心に縄文時代後期～弥生時代前期の遺構や遺物が数多く見つかっています。特に縄文時代晩期の層位的な発掘が行われたことで、当地域での縄文晩期土器の変遷過程や、弥生土器との並行関係について理解が進んだ遺跡として評価されます。

また、多数の木製品や灌漑施設、埋葬施設などが確認され稻作開始期前後の集落様相が明らかとなっています。

遺跡は現在国道9号の改築路線として開発され、見学はできません。

【所在地】大田市仁摩町大國  
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター/TEL.0852-36-8608



### つわのちょうきょうどかん 津和野町郷土館

津和野町

本館は郷土の歴史資料を後世に保存継承するため、大正10年、当時としては県内唯一の郷土歴史博物館として設立されました。昭和17年に建設された現在の建物は登録有形文化財に登録されており、町内出土の考古遺物なども展示しています。  
【開館時間】8:30～17:00  
【休館日】毎週火曜日、年末年始(12月30日～1月4日)  
【入館料】一般400円、中高生300円、小学生150円  
【お問合せ】島根県鹿足郡津和野町森村口127/TEL.0856-72-0300



### ひきみうつどぱーく 匹見ウッドパーク

益田市  
ひきみかみこうみんかん  
(匹見上公民館)

匹見ウッドパークは、元高校の跡地を利用して整備された地域の拠点・交流施設で、匹見峡温泉「やすらぎの湯」に隣接しています。館内には、匹見町の歴史を紹介する文化財展示・解説コーナーや図書コーナーなどがあり、グラウンドゴルフ場は無料で楽しめます。  
【開館時間】9:00～17:00  
【休館日】年末年始  
【入館料】無料【お問合せ】TEL.0856-56-1144



### あさひかるさとれきしこうえん 旭ふるさと歴史公園

浜田市

資料館内には、旭町本郷所在の坂井原遺跡出土の縄文土器・石器の他、浜田市指定文化財の重富廃寺跡出土品などが展示されています。  
【開館時間】9:00～17:00  
【休館日】12/28～1/4【入館料】無料  
【お問合せ】浜田市教育委員会文化スポーツ課文化財係  
TEL.0855-25-9731



### さんべじょうもんのもりみゅーじあむ さんべ縄文の森ミュージアム

大田市

約4,000年前の三瓶山の噴火で埋もれた縄文時代の森を、発掘時の状態で展示しています。三瓶小豆原埋没林は、国の天然記念物に指定されています。  
【開館時間】9:00～17:00【休館日】毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)3月と12月の第1月曜日から金曜日、年末年始  
【入館料】大人300円(団体240円)・小中高生100円(同80円)  
【お問合せ】0854-86-9500



## 隠岐地域

### 隠岐地域の旧石器時代・縄文時代

隠岐地域の遺跡では、島後で採れる黒曜石を用いた石器が多く出土しています。鋭く割れる黒曜石は、鏃や槍先などの狩りの道具や、皮なめなどの加工用の道具の素材として利用されました。隠岐産の黒曜石は、本土の遺跡からも多く出土しており、隠岐と本土の間で活発な交流があったことがうかがえます。



### 後鳥羽院資料館

海士町内の遺跡から出土した土器などの展示と、1221年に承久の乱で敗し、隠岐・海士町へ配流された後鳥羽天皇に関する展示品が見学できます。

【開館時間】9:00～17:00【休館日】12月1日～2月末日まで  
【入館料】300円【お問合せ】後鳥羽院資料館/TEL.08514-2-1470



### ひがしふねいせき 東船遺跡

隠岐の島町

〔隠岐の島町初の旧石器が出土〕

隠岐の島町の南部、今津地区の標高12m～31mの台地上上で確認された旧石器時代から近代までの複合遺跡です。新隠岐空港の整備に先立って平成10年から平成12年に発掘調査が行われ、黒曜石製の台形様石器や細石刃核などの旧石器時代の遺物が、隠岐の島町で初めて出土しました。また、黒曜石の剥片なども多く出土していることから、黒曜石製石器の製作や本土への搬出拠点であった可能性も考えられます。現在は、空港滑走路の盛土の下になり消滅しています。



【所在地】隠岐の島町今津  
【お問合せ】隠岐の島町教育委員会  
TEL.08512-2-2126

### ひがしふねいせき 湊遺跡

隠岐の島町

〔島後北部の先史時代複合遺跡〕

隠岐の島町北部の湊地区に所在する遺跡です。昭和30年ごろの関西大学と島根大学の合同調査では、黒曜石製の石器をはじめとして、縄文時代後期から弥生時代の土器が出土し、先史時代においては隠岐の島町北部の中心的な遺跡であったと考えられます。湊地区は隠岐の島町内では黒曜石の産出が少ない地区ですが、他の遺跡と同じように黒曜石の出土が多いのは、原産地である隠岐の特性と言えます。

【所在地】隠岐の島町湊  
【お問合せ】隠岐の島町教育委員会/TEL.08512-2-2126



※現地見学はできません。

### みやびいせき 宮尾遺跡

隠岐の島町

〔黒曜石の積出港〕

西郷湾内東部の宮尾半島にある縄文時代を中心とする遺跡です。昭和46年(1971)に発掘調査が行われ、大量の縄文土器や黒曜石製の石鏃、石斧などが出土しました。石鏃は隠岐の島町北西部の久見産黒曜石などで作られており、土器は縄文時代前期のものも確認されています。

黒曜石製の石器が、一つの遺跡から大量に確認されていることなどから、黒曜石の加工所や積出港の性格を有する遺跡と考えられています。

【所在地】隠岐の島町東郷  
【お問合せ】隠岐の島町教育委員会/TEL.08512-2-2126



※現地見学はできません。

### こおりやまいせき 郡山遺跡

海士町

〔縄文中期の土器が出土〕

昭和48年に調査された遺跡で、縄文時代中期の土器や黒曜石製の石器などが見つかっています。郡山は火山灰によって形成された15mくらいの台地となっており、現在は木が茂っているので遺跡の見学はできません。出土品は、後鳥羽院資料館に展示されています。

【所在地】隠岐郡海士町  
【お問合せ】海士町教育委員会/TEL.08514-2-1221



発掘当時の郡山遺跡の様子

## 出雲地域

### 出雲地域の旧石器時代・縄文時代

出雲地域では、平野部の沖積地、山間部の河岸段丘、宍道湖・中海の沿岸、沿岸部の洞窟など様々な場所に遺跡が確認されています。また、旧石器時代の後半には海面の低下により隠岐と本土は陸続きだったと考えられていて、日本海や宍道湖・中海の底には未発見の遺跡が眠っている可能性があります。

旧石器時代の遺跡からは、瀬戸内技法や湧別技法と呼ばれる、瀬戸内地方や東北日本の技術が用いられた石器が出土しており、非常に広い範囲で人の往来があったことがうかがえます。石器の石材には、隠岐の黒曜石や松江市花仙山で採れる玉髓などのほか、広島県や香川県の安山岩・サヌカイトも用いられています。

縄文時代では、山間部の河川流域で、三瓶山より噴出した火山灰の下から集落跡が見つかっています。また、平野部の低湿地にある遺跡からは、動物の骨や木製品といった普段は残りにくい遺物が豊富に出土していて、縄文時代の生活を知るうえで貴重な情報を提供してくれます。

#### ●現地見学可能な遺跡



### 松江



### 雲南



## 出雲地域

はらだいせき

### 原田遺跡〔島根を代表する旧石器時代・縄文時代のムラ〕

奥出雲町

原田遺跡は、斐伊川流域の河岸段丘上に立地しています。旧石器時代の調査では、火山灰を挟んで3つの地層から石器群が見つかっており、3万年以上前からこの地に人々が訪れていたことが明らかとなっています。このように旧石器が層位的に出土した事例は、島根県では初となります。生活の跡としては、調理に用いられた焼けた礫群や、墓の可能性がある土坑が見つかっています。縄文時代の調査では、竪穴建物跡・配石墓・土器埋設遺構などが見つかっているほか、多量の土器をはじめ狩猟・漁労・加工・製粉・伐採・祭祀等に用いた多彩な遺物が出土しています。原田遺跡の周辺では他にもたくさんの縄文時代の遺跡が見つかっています。

現地を見学することはできませんが、出土した資料の一部は島根県立古代出雲歴史博物館で展示されています。

【所在地】奥出雲町佐白

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



縄文時代の配石墓



出土した旧石器



旧石器の調査状況

しょうげんじいせき

### 正源寺遺跡

松江市

〔北から到来した技術〕

県道浜乃木湯町線(湯町工区)建設に伴う発掘調査により細石核・細石刃・削片などが出土しました。これらは北陸・東北地方で多用される特徴的な技法が用いられ、日本海沿岸を通じて技術がもたらされたと考えられています。

周辺からも同様の石器が出土しており、このあたりで細石器を作ったり、使用したことが明らかとなりました。現在は道路になっており見学はできません。

【所在地】松江市玉湯町湯町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



包含層出土旧石器



正源寺遺跡全景

しもくろだいせき

### 下黒田遺跡

松江市

〔風土記の丘地内の旧石器遺跡〕

意宇平野を一望する丘陵にあり、古代の大規模な掘立柱建物跡群と大溝遺構が確認されたことから注目されています。その後の調査では、大小あわせて約40点の石核および剥片が出土しました。

完成品とみられるものは見つかっていませんが、硬質の玉髓を用いた旧石器時代のものである可能性が極めて高いとされています。現地は見学できません。

【所在地】松江市大庭町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



出土した旧石器

とりがさきいせき

### 鳥ヶ崎遺跡〔宍道湖を眺める丘の上の遺跡〕

松江市

宍道湖南岸の玉湯町に所在します。段丘が湖に突出して岬状になっている一帯が旧石器時代の遺跡で、現在はふれあいパークになっています。

打撃を加えて石器を作ろうとした元の素材である「石核」や、玄武岩を使ってナイフの様に切るための道具「角錐状石器」などが発見されています。

鳥ヶ崎に人が住んでいた当時はまだ湖ではなく「古宍道川」に沿ってできた小高い段丘でした。このあたりは狩りもしやすく、メノウの産地である花仙山も近くにあり、旧石器時代の人々にとっては住みやすいところではなかったかと思いを巡らすことができます。

宍道湖ふれあいパークに駐車して見学可。

【所在地】松江市玉湯町林

【お問合せ】松江市埋蔵文化財調査室  
TEL.0852-55-5284



鳥ヶ崎遺跡から宍道湖北岸を眺める

にしかわついせき

### 西川津遺跡

松江市

〔低湿地に広がる拠点集落〕

朝酌川流域に広がり、今から約1万年前の縄文時代早期からの人々の生活の痕跡が確認されています。

土器や石器とともに、人々の暮らしの様子が具体的にわかる資料が多数出土しており、シカやイノシシを狩り、その角や骨を加工して利用した骨角器(刺突具や装身具)が多く発見されています。

また、川岸近くでは杭列が発見されており、漁撈に関わる何らかの簡易な施設であった可能性が考えられています。

【所在地】松江市西川津町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



現地の様子

しまねいがくこうないせき

### 島根大学構内遺跡

松江市

〔多量の木製品が残る水辺の遺跡〕

島根大学(松江キャンパス)にある縄文時代を中心とした低湿地遺跡。縄文前期は、古宍道湾の水辺に位置しており、当該期の漁撈具などが出土しています。長さ約6mのスギ板材(丸木舟推定板材)、カイ2本とヤス柄などから当時の木工文化や漁撈生活をうかがい知ることができます。

出土品は島根大学総合博物館アシカルで見学することができます。現地は見学できません。

【所在地】松江市西川津町【お問合せ】島根大学総合博物館アシカル/TEL.0852-32-6496



木製品が出土した様子

## 出雲地域

**国指定** 佐太講武貝塚 [水辺近くの豊かな縄文人の暮らし] 松江市

江戸時代に掘られた運河佐陀川を挟んで約200mの範囲に広がっています。貝塚は、地表下に1m近い厚さで、ヤマトシジミを中心とする貝層が堆積しています。

貝の他にはドングリ、トチなどの木の実の他、獸骨、魚骨、植物など、当時の食生活や環境が分かる資料が出土しました。

この遺跡の貝層剥ぎ取り断面、出土資料は鹿島歴史民俗資料館で見学することができます。

【所在地】松江市鹿島町名分  
【お問合せ】松江市立鹿島歴史民俗資料館 TEL.0852-82-2797


**国指定** サルガ鼻洞窟住居跡 [多彩な遺物が出土した洞窟遺跡] 松江市

中海に突き出た断崖があり、昭和9(1934)年に発見されました。縄文時代後期前半の標識土器とされた崎ヶ鼻式土器や、石器(石斧、石鎌、石匙、石錘、磨石、凹石など)、骨製刺突具、装身具(硬玉製勾玉、牙製垂飾、玦状耳飾)、ほかに獸骨、鳥骨、魚骨などが多量に出土しています。土器の作られた年代から、縄文前期から晩期までほぼ継続した遺跡であることが分かりました。大小4つの洞窟があり、その中で最大的ものは深さ約60m、高さ、幅ともに5mあります。

現地を見学することはできません。  
遺物は島根大学、島根県埋蔵文化財調査センター、八雲立つ風土記の丘展示学習館に保管されています。

【所在地】松江市美保関町森山  
【お問合せ】松江市まちづくり文化財課/TEL.0852-55-5523



**国指定** 権現山洞窟住居跡 [縄文時代の洞窟遺跡] 松江市

縄文時代の洞窟住居跡です。洞窟は海食によりできたもので、入口は8~9m、奥行は3~4m、2つの小さな洞窟に分かれています。サルガ鼻洞窟から東に2kmの地点に当たります。

部分的な調査しか実施されていませんが、黒曜石およびサヌカイト製の石鎌、骨製刺突具、土器、貝類などが出土しています。

出土した土器は縄文時代後期後半の特徴を持つ磨消縄文土器、貝殻文土器で、後期から晩期にかけてみられる無文粗製土器や無文研磨土器などもあります。

落下の危険があるので、洞窟の中には入れません。

【所在地】松江市美保関町森山  
【お問合せ】松江市まちづくり文化財課/TEL.0852-55-5523



**北講武氏元遺跡** 松江市

[突帯文土器と弥生前期土器が同一層から出土]

圃場整備に伴う発掘調査により、縄文晚期の突帯文土器と弥生前期土器が同一層から出土し、縄文晚期土器を使う人と、弥生前期土器を使う人が一定期間ともに暮らしたことが判明しました。この地で縄文人と弥生人の出会いがあったことになります。

この遺跡の出土品は、鹿島歴史民俗資料館で展示しています。現地は見学できません。

【所在地】松江市鹿島町北講武  
【お問合せ】松江市立鹿島歴史民俗資料館 TEL.0852-82-2797



発掘調査の様子

**菅沢遺跡** [飯梨川中流域で確認された縄文時代早期の遺跡]

史跡富田城跡から4km上流の飯梨川に突き出た低丘陵上に位置し、県道の改良拡幅工事の実施に伴い昭和56年に一部発掘調査が実施され、土壌や集石遺構をはじめ、土器や石鎌などが確認された縄文時代早期の遺跡です。発掘調査後は道路が建設されたため、遺跡を見学することはできませんが、出土遺物の一部は安来市立歴史資料館にて展示を行っています。

【所在地】安来市広瀬町菅原  
【お問合せ】安来市教育委員会文化財課 TEL.0854-23-3185



菅沢遺跡 遺構検出状況

**山持遺跡** [数千年以上続いた地域の拠点]

平成18(2006)年度から平成19(2007)年度に国道431号道路改築工事(東林木バイパス)予定地内で実施された山持遺跡の発掘調査では、縄文時代の遺物が多数出土しました。山持遺跡は出雲平野北部の北山山系南麓にあり、また当時日本海と繋がっていた宍道湖(古宍道湖)沿岸にも位置するなど、山の幸や海の幸などの食糧資源に恵まれた場所であったことが分かります。

調査によって早期から晩期までの土器が揃って見つかっており、この周辺が数千年以上続いた縄文時代の拠点的な場所として生活が営まれていたと考えられます。

現地は道路となっています。

【所在地】出雲市西林木町  
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター TEL.0852-36-8608



発掘調査で出土した早期～中期の土器



## 出雲地域

きょうでんいせき

### 京田遺跡〔北海道産水銀朱付着の異形土器が示す壮大な交流〕

出雲市

京田遺跡は、山陰自動車道(出雲湖陵道路)の建設に伴い平成27(2015)年度から平成30(2018)年度に発掘調査が行われました。遺跡は出雲平野の南西部にある神西湖に注ぐ常楽寺川西岸の丘陵縁辺部にあり、これまで弥生時代や古墳時代などの遺物が知られていましたが、この地に縄文時代後期中葉頃の大規模な集落が眠っていることが調査で初めて明らかになりました。

調査では多量の遺物が見つかり、集落が栄えていた様子がうかがえます。出土遺物には関東地方や九州地方の影響を受けた土器も含まれ、各地との交流が盛んであったことを示しています。なかでも「異形土器」と呼ばれる東日本由来の特異な形をした土器は、北海道産の水銀朱が付着していたことで大きな注目を集めました。北海道産の水銀朱は、異形土器のほかに加工具の磨石や容器に用いた粗製土器の内面にも付着しており、水銀朱の原材料を集落内に搬入して加工した状況が明らかになりました。京田遺跡の集落が遠く離れた地域と盛んに交流し、そのなかで重要な情報や貴重な品々を入手していた様子を具体的に物語っています。水銀朱が付着した異形土器や磨石は、出雲弥生の森博物館で展示されています。

現地は道路となっております。

【所在地】出雲市湖陵町常楽寺

【お問い合わせ】出雲弥生の森博物館/TEL.0853-25-1841



京田遺跡上空から北に出雲平野を望む



発掘調査で出土した主な土器



北海道産水銀朱付着の遺物(異形土器は左と下)

さんだいにいちいせき

### 三田谷I遺跡〔縄文時代の生業を映す丸木舟や貯蔵穴〕

出雲市

出雲平野を流れる斐伊川の水を神戸川に分流する治水事業(斐伊川放水路事業)に伴い、平成6(1994)年度から平成10(1998)年度に三田谷I遺跡の発掘調査が行われました。調査では多数の出土遺物とともに丸木舟や多数の貯蔵穴などが見つかり、縄文時代後期から晩期における人々の生活の様子が明らかになりました。

丸木舟はスギ材を使用し、残存する長さが約5.5m、幅が最大で0.6mほどの大きさで見つかりました。集落で暮らした人々が、この舟を使って神戸川やその河口に広がっていた入海での漁労や物資の運搬を行う姿を今に伝えています。貯蔵穴にはアカガシやイチイガシなどの堅果類が多く、また一部の貯蔵穴には底に敷かれた網代が残っていました。そのほか後期前半頃の分銅形をした土偶、晩期の終わり頃とされる結晶片岩製の石棒など、当時の精神文化が反映された遺物も見つかっています。

出土した丸木舟などは、島根県立古代出雲歴史博物館の常設展で展示されています。また斐伊川放水路事業記念館では、出土品は展示されていませんが、原寸大の丸木舟や調査状況がパネル展示されています。

現地は見学できません。

【所在地】出雲市上塩冶町

【お問い合わせ】島根県埋蔵文化財調査センター/TEL.0852-36-8608

### 斐伊川放水路事業記念館

【開館時間】10:00～16:00 【入館料】無料 【休館日】火曜日・水曜日

【お問い合わせ】出雲市建設企画課(斐伊川放水路事業記念館)/TEL:0853-21-6561



発掘調査中の三田谷I遺跡と神戸川



発見された丸木舟



底に堅果類が残っていた貯蔵穴

## 出雲地域

あげだいにせき

### 上ヶ谷遺跡〔近畿地方との情報交流を示す土器文様〕

出雲市

上ヶ谷遺跡は低い丘陵で囲まれた谷部に所在し、新建川右岸に位置します。平成8(1996)年度に農道整備事業に伴う発掘調査が行われ、出雲平野では珍しい縄文時代中期の遺物がまとめて出土しました。そのなかで目を引くのが、1個体分がひとかたまりで出土した中期末葉の土器で、ほぼ完形の状態に復元されています。この土器の文様は出雲地方の特徴を持つ一方で、近畿地方を中心に行流した紡錘形の文様を取り入れており、近畿地方との盛んな情報交流があったことがよく分かります。この特徴的な土器は、荒神谷博物館の原郷展(特別展期間以外の常設展示)で展示されています。

【所在地】

出雲市斐川町神氷

荒神谷博物館

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】有料

(お問い合わせください)

【展示室休館日】火曜日

【お問合せ】

TEL.0853-72-9044



完形に復元された土器



荒神谷博物館での展示の様子

いたやさんいせき

### 板屋Ⅲ遺跡〔八千年の長きにわたって続いた縄文遺跡〕

飯南町

神戸川と弓谷川が合流する付近の丘陵の上にある遺跡です。志津見ダム建設に伴い平成6年から発掘調査が行われ、「ハイカ」と呼ばれる三瓶山から噴出した厚い火山灰層の上下から、数多くの土器や石器が出土しました。縄文時代草創期末から晩期に至るまでほぼ間断なく遺物が出土しており、志津見の縄文時代を語るうえで欠かすことが出来ない遺跡と言えます。また、晩期の土器の中にはイネの圧痕がついたものも見つかっていて、縄文時代の板屋Ⅲ遺跡にイネが存在していたことが明らかになりました。現地は見学できません。

【所在地】飯南町志津見

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター

TEL.0852-36-8608



イネの圧痕が残る土器



板屋Ⅲ遺跡の土層

ごりょうでんいせき

### 御領田遺跡〔出雲平野初!縄文時代の竪穴建物跡を確認〕

出雲市

平成5(1993)年度の圃場整備工事中に発見された御領田遺跡は、京田遺跡から常楽寺川を挟んだ対岸の丘陵裾部に立地します。発掘調査によって縄文時代の後期前葉の竪穴建物跡が見つかりました。出雲平野ではそれまで縄文時代の建物跡が確認されたことはなく、出雲平野にも縄文時代の集落が広がっていたことを具体的に示す貴重な発見となりました。また御領田遺跡は京田遺跡のすぐ近くにあることから、縄文時代後期には複数の集落が常楽寺川周辺で存在したことが想定できます。現地付近には説明看板が立ててあり、遺跡の詳しい内容を知ることができますが、現地は見学できません。

【所在地】出雲市湖陵町常楽寺

【お問合せ】出雲弥生の森博物館/TEL.0853-25-1841



見つかった竪穴建物跡



現地の遺跡説明看板

町  
指定

### 五明田遺跡〔拠点的な大集落遺跡〕

飯南町

神戸川と才谷川が合流する付近の南側の河岸段丘上に立地している遺跡です。志津見ダム建設に伴い平成2年から3度の発掘調査が行われ、縄文時代中期～後期の4棟の竪穴建物跡や貯蔵穴、磨消(すりけし)縄文と呼ばれる鮮やかな文様を持つ後期の土器などが見つかっています。現地は見学できません。発掘された土器などの資料は八神文化財収納庫に展示してあります。

\*町指定は土器のみ

【所在地】飯南町八神

【お問合せ】飯南町教育委員会/TEL.0854-76-3944



五明田遺跡出土土器

しもやまいせき

### 下山遺跡

飯南町

〔東北地方から土偶が持ち込まれた遺跡〕

神戸川と角井川が合流する付近の丘陵の上にある遺跡です。志津見ダム建設に伴い平成7年から発掘調査が行われました。遺跡からは縄文時代早期から晩期にかけての土器がほぼ連続して出土しており、各時期ごとの遺跡の変化を見ることができます。また、発見された土偶の中に屈折像土偶と思われる東北地方ではよく確認される土偶が見つかっており、東北地方からもたらされたのではないかと考えられています。現地は見学できません。

【所在地】飯南町角井

【お問合せ】

島根県埋蔵文化財課

調査センター

TEL.0852-36-8608



下山遺跡出土土偶(上は復元品)

## 出雲地域

県  
指定

### 宮田遺跡〔逆さ立ちした2個の土器〕

雲南市

飯石川の左岸にある河岸段丘上に位置します。1979(昭和54)年、ほ場整備事業にともなう発掘調査をおこない、縄文時代後期後半から晩期前半にかけての遺構や遺物が多数見つかりました。なかでも注目されたのが、直径約0.5m、深さ約0.6mの2個の穴から、それぞれ口縁部を下にして逆さまに立たた状態で埋められていた深鉢形土器の発見であります。

これらの土器は「乳幼児を葬った土器棺」とも「出産後の胎盤などを収納した胞衣壺(えなつぼ)」とも言われていますが、土器内からは土器片と石しか見つかっておらず、その実態は不明です。

現地には説明板が設置してありますが、遺跡周辺の道幅は狭い上に専用駐車場がないため、見学の際はご注意ください。

【所在地】雲南省三刀屋町多久和

【お問合せ】雲南省教育委員会/TEL.0854-40-1075



土器の出土状況

### 島根大学総合博物館アシカル

松江市

しまねだいがくそうごうはくぶつかんあしかる  
島根大学総合博物館アシカル

島根大学松江キャンパス内にあり、前身校も含めると

140年以上の歴史をもつ島根大学の所蔵する様々な標

本資料類を展示しています。

また、松江キャンパス内は全域が島根大学構内遺跡と  
して周知の遺跡に指定されており、長年にわたるキャンパ  
ス内の遺跡調査の研究成果を見学することができます。

【開館時間】月～土曜日 10:00～17:00

【休館日】日曜日、国民の祝日、振替休日、年末年始、その他入試日など

【入館料】無料

【お問合せ】TEL.0852-32-6496



市  
指定

### 平田遺跡〔斐伊川上流域に位置する縄文集落〕

雲南市

斐伊川左岸の河岸段丘上に位置する縄文時代からの遺跡です。温泉小学校屋内運動場建設工事等に伴う発掘調査が1995(平成7)年より実施され、縄文時代後期の土坑墓7基などが見つかりました。いずれの土坑からも人頭大の石が見つかっており、当時の埋葬形態をうかがい知るうえで貴重な発見となっております。

出土遺物の中で注目されたのが、石器の出土量です。石鏃が187点、打製石斧が40点を超えるなど、県内でも有数の出土数を誇ります。これらの石器は、石器製作時に生じる「石の剥離片」とともに出土していることから、集落内で製作されたものと考えられています。

遺跡は工事により消滅しましたが、「旧温泉小学校」の敷地内には説明板が設置してあります。

【所在地】雲南省木次町平田

【お問合せ】雲南省教育委員会/TEL.0854-40-1075



発掘時の土坑墓

### 鹿島歴史民俗資料館

松江市

かしまれきしみんぞくじりょうかん  
佐太神社の参道のとなりにあり、国史跡佐太講武貝塚の剥ぎ取り土層や出土品、弥生時代前期の集団墓として知られる古浦砂丘遺跡、県史跡堀部第1遺跡の出土品など数多くの鹿島地域の埋蔵文化財を所蔵しています。

また、中国の文豪・魯迅と、彼に師事した松江市鹿島町出身の中国文学者・増田涉の友情を示す魯迅からの書簡・漢詩等の資料や中国文学、中国に関する書籍を多数有しており、増田涉の業績を紹介する記念室で公開しています。

このほか寄託資料として、佐太神社の社宝やユネスコ無形文化遺産・重要無形民俗文化財「佐陀神能」の関連資料などがあり、その一部を随時展示しています。

【開館時間】9:00～17:00(入館は午後4時30分まで)

【休館日】毎週月曜日(祝日、休日の場合はその翌日)、年末年始(12月28日～1月4日)

【入館料】個人300円、団体250円 【お問合せ】TEL.0852-82-2797



やすぎしりつれきしりょうかん

### 安来市立歴史資料館

安来市

史跡富田城跡の麓に立地する資料館であり、菅沢遺跡から出土した遺物をはじめとした、安来市の歴史を知るうえで貴重な文化財の数々を展示しています。

【開館時間】9:30～17:00

【休館日】毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は、その翌日)

【入館料】常設展:一般210円、高・大学生100円、小・中学生20円(特別展の際は金額が変更となる場合があります。)

【お問合せ】TEL.0854-32-2767



### 島根県立古代出雲歴史博物館

出雲市

しまねけんりつこだいいしそくはくぶつかん  
出雲大社の東隣にある歴史博物館です。島根県の歴史や文化を原始・古代から近現代まで通じて学ぶことができます。「総合展示室」には旧石器～縄文時代のコーナーがあり、原田遺跡から出土した旧石器や三田谷I遺跡出土の丸木舟などが展示されています。

このほか、縄文時代に三瓶山の噴火により埋もれたスギ(縄文スギ)の輪切りの標本も見ることができます。

【開館時間】9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00)

※最終入館時刻は閉館時間の30分前まで。

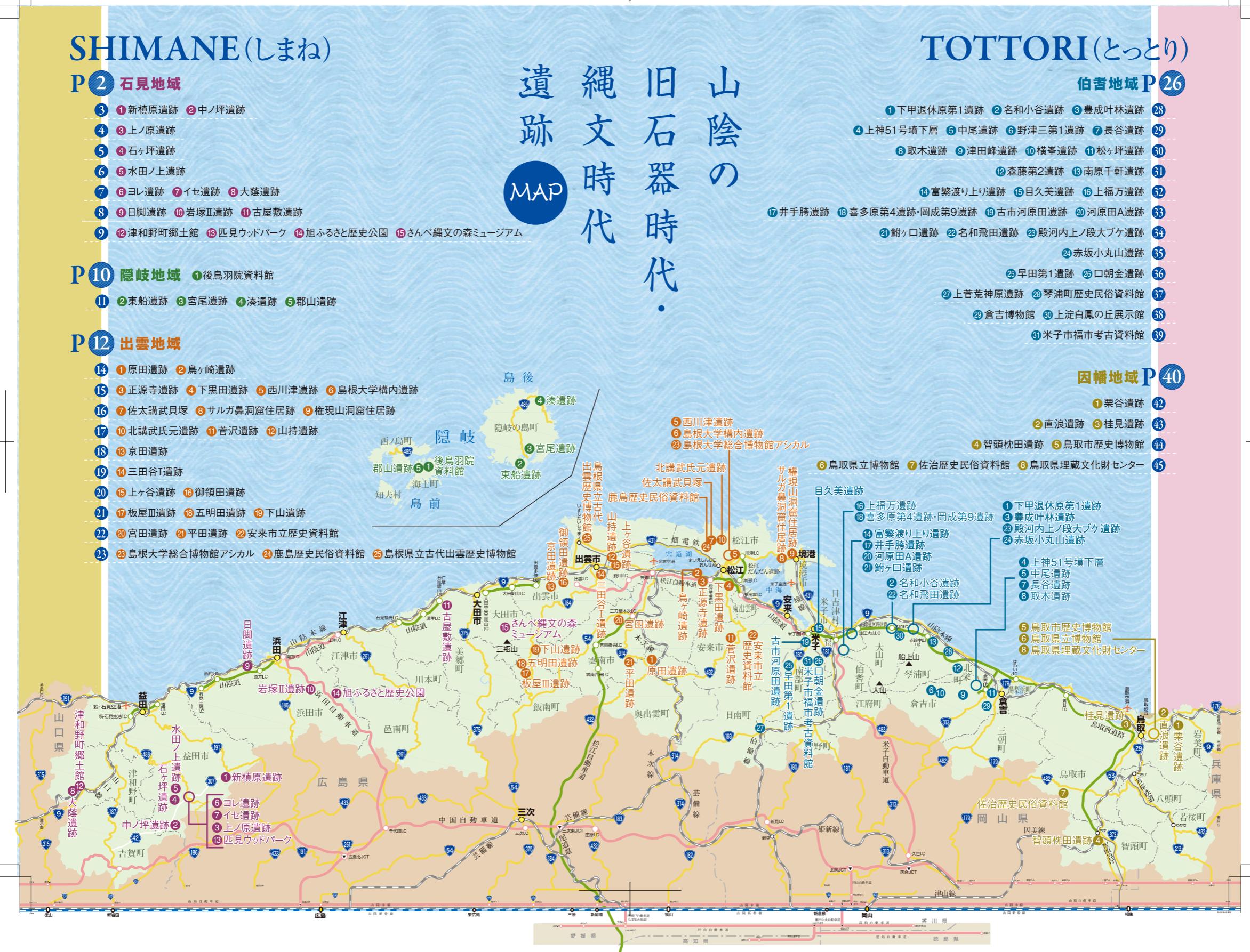
【休館日】毎月第3火曜日(第3火曜日が祝日の場合は、翌日が休館日)

※変更になる場合があります。

【入館料】常設展:一般:620円(団体490円)大学生:410円(団体320円)小中高生:200円(団体160円)

【お問合せ】0853-53-8600(代)





## 伯耆地域

### 伯耆の旧石器時代・縄文時代

鳥取県下の旧石器時代遺跡は、大山山麓周辺に集中しています。代表例としては、姶良丹沢火山灰(AT)の下から石器が出土した門前第2遺跡や豊成叶林遺跡、またATを挟んで上下から石器が出土した下甲退休原第1遺跡(いずれも大山町)があります。これらは、県下最古級となる後期旧石器時代前半期の遺跡です。

後期旧石器時代後半になるとナイフ形石器の出土する遺跡が増え、名和小谷遺跡(大山町)では瀬戸内技法を用いた隱岐産黒曜石製ナイフ形石器が出土しています。旧石器時代末期になると、上神51号墳下層(倉吉市)から隱岐産黒曜石製細石核が出土しています。

伯耆地域では、縄文時代草創期から晩期まで様々な縄文時代遺跡が確認されています。当時の海岸線付近に位置する低湿地遺跡の目久美遺跡や、入り海状になっていたと考えられる淀江湾の周辺では、富繁渡り上り遺跡(いずれも米子市)でたくさんの石錘(石のおもり)が出土するなど、漁労活動が行われていたようです。上福万遺跡(米子市)では、お墓と考えられる集石遺構が見つかっています。また、河原田A遺跡(米子市)、口朝金遺跡(南部町)などでは縄文時代の終わり頃の様子がうかがえる遺跡です。

#### ●現地見学可能な遺跡



## 伯耆地域

### 下甲退休原第1遺跡 大山町

【約3万5千年前の県内最古の石器群】

大山から北側に延びる丘陵上にある旧石器時代の遺跡で、姶良丹沢火山灰(AT)を挟んで下から約3万5千年前、上から約1万8千年前の石器群が見つかりました。約3万5千年前の石器群には槍先部分と考えられる台形石器が含まれ、鳥取県内において最も古い石器群です。約1万8千年前の石器群には鋭い刃をもつ小さな石刃(小石刃)が含まれ、これを組み合わせて槍先を作っていたと考えられ、近辺の豊成叶林遺跡出土のナイフ形石器群も合わせ、旧石器時代の石器の変遷を知る上でも重要な資料です。また、出土品の一部は県埋蔵文化財センターで展示しています。

【所在地】  
西伯郡大山町下甲字退休原  
【お問合せ】  
鳥取県埋蔵文化財センター  
TEL.0857-27-6711



### 名和小谷遺跡 大山町

【旧石器人の動きを示す石器】

大山の裾野に広がる台地上で見つかった遺跡で、約2万年前(後期旧石器時代)の全長7.8cm、幅2cm、最大厚1.2cmの国府型(こうがた)ナイフ形石器が出土しました。石器は、瀬戸内海周辺や近畿地方でよく見られる「瀬戸内技法」と呼ばれる技法で作られていますが、使用している石材は隠岐島(おきのしま)産の黒曜石です。この石器の発見は、旧石器人の活動的な動きの一端を垣間見ることができる貴重な資料です。

【所在地】  
西伯郡大山町大字名和字小谷  
【お問合せ】  
鳥取県埋蔵文化財センター  
TEL.0857-27-6711



### 上神51号墳下層 倉吉市

【隠岐の黒曜石を使用した細石核】  
蜘蛛家山の南西側に位置する上神51号墳の下層から細石核が採集されました。

この石核は細長い船底形で、甲板状の平坦面から連続して細石刃をはぎ取った跡が小口部に見られます。分析から隠岐の島町の久見産の黒曜石製であることが明らかになっています。

これらは倉吉博物館で展示されています。  
【所在地】倉吉市上神  
【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課  
TEL.0858-22-4419



細石核

### 中尾遺跡 倉吉市

【貴重なナイフ形石器が出土】

四王寺山の南麓、標高26mの低丘陵に位置します。

発掘調査によって、ナイフ形石器2点を含む360点の石器が出土しています。瀬戸内技法で作られた黒曜石製の国府型ナイフ形石器は、地域間の交流を示唆するものとして注目されます。また、落し穴159基が丘陵全体に広がり、周辺からは縄文土器も出土しています。

倉吉博物館でナイフ形石器が展示されています。  
【所在地】倉吉市太谷  
【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課  
TEL.0858-22-4419



ナイフ形石器

### 県指定 豊成叶林遺跡 [石器製作跡の発見] 大山町

大山北麓の丘陵上に立地する遺跡で、2011年に行われた発掘調査により、約3万年前の後期旧石器時代の石器製作跡が見つかっています。発掘調査では石器製作の際に出土する石くず類が2ヶ所に集中して確認され、ナイフ形石器、剥片、石材が接合することからも、石器づくりの工程を具体的に知ることができます。また、石材は主に玉髓(ぎょくすい)で、島根半島や宍道湖の南側のものとの可能性が高く、隠岐島産とみられる黒曜石製のナイフ形石器も出土しています。

【所在地】西伯郡大山町豊成叶林  
【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター  
TEL.0857-27-6711



出土した石器・石材と接合資料



石器出土状況

### 野津三第1遺跡 倉吉市

【異なる文化の交差点】

大山東側の中腹、標高500mの丘陵上に位置します。露出していたソフトローム層で多くの石器の散布を確認、採集しました。

発見された石器は、ナイフ形石器3点をはじめとする石器及び剥片162点です。ナイフ形石器には、瀬戸内地方、中部・北陸地方とそれぞれ異なった地域の技法がみられ、表掲資料ながら地域間交流を物語る貴重な遺物群です。

【所在地】倉吉市関金町野添  
【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課  
TEL.0858-22-4419



ナイフ形石器

### 長谷遺跡 倉吉市

【古代人の狩猟場】

標高140mの向山丘陵の北西に延びるなだらかな尾根上に位置しています。旧石器時代のナイフ形石器と木葉形尖頭器が出土し、縄文時代の落し穴も57基発見されました。周辺から縄文土器や石鏃も出土しており、格好の狩猟場であったことが窺えます。倉吉博物館で石鏃が展示されています。

【所在地】倉吉市巖城【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課/TEL.0858-22-4419



落し穴(深さ162cm)

## 伯耆地域

### とりぎいせき 取木遺跡

倉吉市

#### 〔縄文時代早期の建物跡〕

灘手平野に向かって延びる舌状台地上に位置します。県内で発見例の少ない縄文時代早期の竪穴建物跡が発見され、他に柱穴を円形に配置した簡易な建物があった可能性もあります。

周辺には火を受けて赤く変色した石を集めた礫群が2基あり、その中から押型文を施した尖底土器が出士しています。煮炊きに使用された炉と考えられます。

【所在地】倉吉市北面

【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課  
TEL.0858-22-4419



竪穴建物跡

### つだみねいせき 津田峰遺跡

倉吉市

#### 〔縄文時代後期の建物跡〕

天神野丘陵から北東に派生する丘陵北端部に位置します。

発見された建物跡は方形で、南北

4.0m、東西3.5m以上の大きさです。建物の中央には、人頭大の河原石をコの字形に組んだ石囲炉がありました。石囲炉は石や床面が赤く変色しており、ここで火を焚いて使用していたことが分かります。

倉吉博物館で土器が展示されています。

【所在地】倉吉市三江

【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課  
TEL.0858-22-4419



竪穴建物跡

### もりとうだいにいせき 森藤第2遺跡〔建物跡からみつかった土偶〕

琴浦町

加勢蛇川によって開析された丘陵上に位置します。縄文時代から古代にかけての集落遺跡です。縄文時代の遺構は、隣接する森藤第1遺跡を含め、竪穴建物2棟、土坑63基がみつかっており、土坑のうち落とし穴の可能性が高いものは28基あります。竪穴建物は2棟とも隅丸方形で、1号建物は床面積20m<sup>2</sup>、中央のピットに立てられた石から石囲炉であったと推定されています。2号建物は床面積16m<sup>2</sup>、中央で炉跡が検出されています。出土遺物には磨消縄文土器と縁帶文土器の中間的な型式である布勢式とよばれる土器のほか、分銅形土偶も出土しています。

【所在地】東伯郡琴浦町大字森藤

【お問合せ】琴浦町教育委員会  
事務局社会教育課  
TEL.0858-52-1161



土偶破片

### よこみねいせき 横峯遺跡

倉吉市

#### 〔縄文時代後期の建物跡〕

小鴨川上流左岸の天神野台地に立地します。発見された建物跡は、すでに削平されていたためか、柱穴が確認されただけで建物の詳細はよく分かっていません。直径4~5m前後の円形の竪穴建物の可能性があります。建物の床面からは縄文土器とサヌカイトの石くずが出土しています。

【所在地】倉吉市閑金町松河原  
【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課  
TEL.0858-22-4419



縄文土器

### まつがづぱいせき 松ヶ坪遺跡

倉吉市

#### 〔縄文時代晩期の墓地か〕

縄文時代晩期から弥生時代前期の遺跡で、史跡大御堂廃寺跡の発掘調査時に発見されました。

縄文時代晩期の土器棺墓は、別の土器片で口縁が覆われた深鉢を穴に埋めたものです。また、川原石が並べ置かれた下に多数の穴が掘られた配石遺構も見つかり、周辺からは大量の縄文土器が出土しています。

倉吉博物館で土器が展示されています。

【所在地】倉吉市駄経寺町

【お問合せ】倉吉市教育委員会文化財課  
TEL.0858-22-4419



土器棺墓

### なんばらせんげんいせき 南原千軒遺跡〔東日本系土偶の発見〕

琴浦町

琴浦町西部を流れる勝田川と黒川によって形成された扇状地に位置します。縄文時代の遺構は、竪穴建物1棟が確認されています。竪穴建物跡は長軸5.25m、短軸約3.6mの楕円形で、床面では中央からやや西に寄った位置に石囲炉が設けられるほか、柱穴の可能性のある小穴、焼土面などが確認されています。出土遺物は土器、石器が出土しており、土器は後期初頭(中津式)で磨消縄文を囲む沈線が途切れ、沈線の末端が入り組み状になる特徴が見られます。この他、縄文時代前期、後期前葉～後葉の土器のほか、東海地方を中心に分布する土偶と類似した特徴をもつ土偶脚部片1点が出土しており、山陰地方と東海地方の地域間交流を考える重要な資料として注目されています。

【所在地】東伯郡琴浦町大字光大加布毛  
【お問合せ】琴浦町教育委員会  
事務局社会教育課  
TEL.0858-52-1161



土偶の脚部片



竪穴建物跡

## 伯耆地域

### とみしげわたりあがりいせき 富繁渡り上り遺跡

米子市

〔淀江潟で営まれた漁労生活〕

淀江平野南部の水田地帯に位置する遺跡です。現水田下1.5mの地点に縄文時代の遺物包含層が認められました。また、最下層からは自然河川の流路が確認され、この中から多数の遺物が出土しました。長山馬籠式・西川津式を主体とした土器や弓・矢・ヤスなどの木製品、石槍・削器・剥片・石皿・石錐などの石器が出土しています。なかでも石錐の出土数は200点を超えており、この地において漁労活動が行われていたことを示しています。縄文海進期における淀江潟の形成や縄文時代前期初頭の様相を示す重要な遺跡です。

【所在地】  
米子市淀江町富繁  
【お問合せ】  
米子市文化振興課  
TEL.0859-23-5436



### めぐみいせき 日久美遺跡

米子市

〔ドングリ貯蔵穴をもつ海浜集落〕

昭和8年に新加茂川の開削工事によって発見され、昭和9年に京都大学の梅原末治教授により、爪形文土器山陰地方で初めて弥生時代の地層の下に縄文時代の地層が堆積していることが確認された、学史的に貴重な遺跡です。縄文時代前期には海岸に面した集落だったと考えられており、たくさんの土器や石器、クジラやマグロの骨などが出土しています。特に縄文時代前期の土器では、京都市の北白川下層式の特徴を持った爪形の紋様を施す土器が出土しています。また、縄文時代中期のドングリを貯蔵した穴が確認されています。

【所在地】米子市日久美町  
【お問合せ】米子市文化振興課/TEL.0859-23-5436



### いでまたぎいせき 井手跨遺跡

米子市

〔縄文工芸の匠〕

旧淀江湾に近い海辺の縄文時代中期から晩期の遺跡です。この遺跡では、旧淀江湾に注ぎ込む大小の流路から、たくさんの土器や木製品が出土しています。縄文時代中期の船元式と波字式、後期の磨消縄文、縁帶文、凹線文などの土器のほか、木製品では、赤色の漆が塗られた結歯式の堅櫛や耳栓や、鰹節形の丸木舟も出土しています。

旧淀江湾は、砂洲の発達により縄文晚期には潟湖となっていたと推測されており、海上活動に適した環境であったと考えられます。本遺跡は、縄文時代、淀江の海辺で暮らした人々の暮らしを示す遺跡として重要です。

【所在地】  
米子市淀江町淀江  
【お問合せ】  
米子市文化振興課  
TEL.0859-23-5436



### かみふくまんいせき 上福万遺跡〔縄文人の大移動〕

米子市

大山西麓の佐陀川左岸標高75m前後の扇状台地上に立地し、早期から晩期の遺構、遺物が確認された山陰を代表する早期の遺跡です。

中心になる早期の土器は3万5千点以上出土し、近畿地方の高山寺式押型文土器に類似する高さ54cm、口径50cmの大型深鉢が復元されたほか、南九州地方の平桟式に類似する土器もみられます。また、蝶が羽を広げた形のヒスイの首飾りも出土しています。さらに、祭祀施設と考えられる人頭大の石を規則的に配した集石遺構が35基確認されています。集落の姿、土器の変遷、広域的な交流などを考える上で重要な遺跡です。

【所在地】米子市福万  
【お問合せ】米子市文化振興課  
TEL.0859-23-5436



押型文土器(深鉢)

### ふるいちかわらだいせき 古市河原田遺跡

米子市

〔谷間に広がる縄文のムラ〕

米子市古市の谷間に広がる扇状地上に所在しています。国道180号道路改良工事に伴い発掘調査が実施され、縄文時代から中世にいたる集落遺跡であることがわかりました。遺物は縄文時代中期から晩期後葉頃の土器や石器、土偶、岩偶などが出土しています。遺構は後期中葉以降の土坑群、ピット群などが確認されていることから、遺跡の成り立ちは縄文時代中期にさかのぼりますが、居住など本格的な利用は後期中葉頃に始まったことが考えられます。米子市西部の縄文時代後期、晩期の人々の暮らしを考える上で重要な遺跡です。

【所在地】米子市古市字河原田【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター/TEL.0857-27-6711



土偶・岩偶破片

### かわらだだいせき 河原田A遺跡

米子市

〔後期～晩期初めの幅広い交流〕

淀江平野の扇状地に営まれた低湿地遺跡。遺構は確認されず、縄文土器・石斧・石鎌・刃器などが出土しています。縄文土器は、後期前葉・後葉、晩期後葉・中葉の土器が出土していますが、なかでも後期前葉から晩期後葉の土器・石器が多量に出土しています。県内において後期後葉の元住吉山II式・宮瀧式・滋賀里I式の貴重な資料です。また、晩期前葉の東北地方大洞B1式の土器も出土しており、この時期の地域間交流がうかがえる遺跡です。

【所在地】米子市淀江町中西尾  
【お問合せ】米子市文化振興課/TEL.0859-23-5436



## 伯耆地域

### 鮎ヶ口遺跡

米子市

〔九州と交流した海辺の縄文人〕

縄文海進期の内湾・潟湖のほとり近くに営まれた低湿地遺跡です。遺構は確認されず、縄文土器・石錐・石匙・木製品などが出土しています。縄文土器は、前期前葉から中葉（羽島下層Ⅱ式～北白川下層Ⅱb式）が大半を占めていますが、九州の曾畠式や轟式のように遠隔地から持ち込まれた土器も見られ、海上交通を介した交流があったことがわかります。また、100点以上出土した石錐は平均重量191gで、円礫の両端を打ち欠いて紐かけをつくった網漁に用いる錐と考えられます。石匙はサヌカイト製です。

【所在地】  
米子市淀江町中西尾  
【お問合せ】  
米子市文化振興課  
TEL.0859-23-5436



縄文土器(曾畠式)

### 名和飛田遺跡

大山町

〔石器製作と黒曜石流通の拠点か〕

河川によって形成された段丘上に立地する遺跡で、平成15・16年に発掘調査が行われました。縄文時代

と分かった遺構は多くありませんが、早期末から前期初頭頃を中心とした幅広い時期の土器が出土しています。また、石鎌、スクレイバー等の石器の他にも石くずも多く出土しており、石材の多くは黒曜石です。石器製作と黒曜石流通の拠点になるような集落と推定されています。

【所在地】西伯郡大山町大字名和  
【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター  
TEL.0857-27-6711



出土石器群

### 赤坂小丸山遺跡

大山町

〔縄文中期を代表する土器群〕

日本海沿岸から2.3km内陸の大山山麓に位置する縄文時代早期から中期、晚期の遺跡です。早期から中期のはじめにかけては、多数の落とし穴が確認され、落とし穴獵を行なう狩猟場であったことがうかがえます。中期中頃になると、炉跡と考えられる土坑（集石土坑）や黒曜石製の石鎌などの石器製作を行なった痕跡も見つかっており、この時期には狩猟場から居住エリアに変わったことが分かりました。遺跡内では早期の押型土器、織維土器、前期の爪形文土器など多量の縄文土器が出土し、鳥取県内の縄文土器を考える上で貴重な資料となっています。

【所在地】西伯郡大山町赤坂・石井垣

【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター/TEL.0857-27-6711



縄文時代中期の土器

### 殿河内上ノ段大ブケ遺跡

大山町

大山町の北東側にある殿河内集落の西側を北流する下市川の左岸に形成された、標高約35mの河岸段丘上に立地しています。縄文時代早期から晩期にかけての集落遺跡で、後期初頭には4棟の竪穴建物跡があり、いずれの建物中央には石囲炉が造り付けられています。後期中頃には竪穴建物跡1棟と土器溜り1箇所、祭祀遺構と考えられる集石遺構1基や石柱1基などが検出されています。その他、晩期の可能性がある人面土製品が出土しています。一部の出土品は、鳥取県埋蔵文化財センターに展示・保管されています。

【所在地】西伯郡大山町殿河内  
【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター/TEL.0857-27-6711



後期初頭の竪穴建物跡(中央は石囲炉)



人面土製品



落とし穴

## 伯耆地域

### わさだいいちいせき 早田第1遺跡〔縄文早期から前期頃の集落か〕

南部町

法勝寺川に面する河岸段丘上にある縄文時代早期末から前期初頭の集落遺跡です。検出した柱穴の配置や遺物出土状況等から、9棟の平地式住居や柵列があったと考えられています。

【所在地】西伯郡南部町大字上中谷字ヤシキ

【お問合せ】キナルなんぶ(南部町教育委員会人権・社会教育課(文化財担当))/TEL.0859-46-0870



遺跡全景(西から)



遺跡全景(北東から)

### かみすげこうじんぱらいせき 上菅荒神原遺跡〔縄文早期から中期の集落の遺跡〕

日野町

日南町と日野町の境界付近の日野川の河岸段丘上にある縄文時代早期から晩期までの遺跡です。縄文時代早期末から前期の初め頃、中期中頃から晩期の遺物が出土しているほか、獲物をとるための落とし穴の跡や多数の住居跡も見つかっています。

この遺跡で見つかった住居跡は平地住居で、通常集落跡でよくみられる地面に穴を掘って造る竪穴建物とは異なり、地面に円形状や楕円形状に柱を立て、屋根をかけたものと考えられます。県内で数少ない縄文時代早期から中期の縄文集落です。

【所在地】日野郡日野町大字上菅字才ノ木原

【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター/TEL.0857-27-6711



出土した縄文時代晩期の土器



出土した縄文時代中期の土器

### くちあさかねいせき 口朝金遺跡〔断続的に続く越敷山西麓の集落〕

南部町

越敷山西麓には珍しく、縄文時代早期から晩期にかけての断続的な生活痕跡がみられる遺跡です。主となる時期は縄文時代後期後葉から晩期で、出土遺物の多くは流路跡から見つかっています。また、採集したどんぐりを貯蔵した穴も検出されています。

【所在地】西伯郡南部町朝金

【お問合せ】キナルなんぶ(南部町教育委員会人権・社会教育課(文化財担当))/TEL.0859-46-0870



どんぐりが出土した様子



注口土器

### ことうらちょうれきしみんぞくしょくかん 琴浦町歴史民俗資料館

琴浦町

琴浦町歴史民俗資料館では、町内にある山陰地方唯一の国指定特別史跡斎尾廃寺跡、史跡大高野官衙遺跡を中心に、縄文時代から江戸時代までの考古資料や歴史資料のほか、ちょっと昔の琴浦町のくらしを思い出す生活道具や主な産業であった農業で使われた農具など民俗資料の展示を行っています。

縄文時代の展示資料には、水溜り・鶴籠据場遺跡出土の尖頭器や森藤第2遺跡の分銅形土偶ほか、町内から出土した縄文土器、石器などを展示しています。

館内では町内文化財や斎尾廃寺跡についての映像解説なども充実させていますので、ご来館お待ちしております。

【開館時間】9:00～17:00

【休館(応)日】12月29日～1月3日【入館料】なし

【お問合せ】琴浦町教育委員会事務局社会教育課  
TEL.0858-52-1161



## 伯耆地域

### 倉吉博物館

倉吉市

桜やツツジの名所として親しまれている打吹公園の中にあり、倉吉市内出土の考古遺物を展示しています。

《旧石器・縄文時代の主な展示品》

長谷遺跡出土石鎌・中尾遺跡出土石器・上神51号墳下層出土細石核・松ヶ坪遺跡出土土器  
津田峰遺跡出土土器



【開館時間】  
9:00～17:00(入館は16:30まで)  
【休館日】  
月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始  
【入館料】  
一般220円、高校生・大学生110円、中学生以下・70歳以上・障害のある方は無料  
【お問合せ】  
倉吉市仲ノ町3445-8  
TEL.0858-22-4409

### 上淀白鳳の丘展示館

米子市

国史跡上淀廃寺跡のガイダンスとして、出土した壁画、塑像などや復元された金堂内部を見学できる施設です。併せて上淀廃寺成立の前史として、淀江町内の縄文時代から飛鳥時代の遺跡からの出土品も展示しています。縄文時代関連では、鮎ヶ口遺跡・富繁渡り上り遺跡、河原田遺跡、井手脇遺跡などから出土した縄文土器、特に九州地方の曾畠式土器や東北地方の大洞式土器など東西文化の交流を示す土器、さらに、石器や漆塗の櫛・耳栓など豊富な資料を展示しています。

【開館時間】  
9:30～18:00(最終入館17:30)

【休館日】  
毎週火曜日、年末年始、展示替え時臨時休館あり

【入館料】  
一般310円、高大生160円  
【お問合せ】  
米子市淀江町福岡977-2  
TEL.0859-56-2271



38

### 米子市福市考古資料館

米子市

福市考古資料館は、国道181号線に面した、福市史跡公園の入り口にあります。米子市内の遺跡から出土した旧石器・縄文時代の資料では、諏訪西山ノ後遺跡から出土した後期旧石器時代のナイフ形石器や、上福万遺跡から出土した高さ約54cm、口径43cmの押型文土器の深鉢、目久美遺跡から出土した各時代の縄文土器や石器、クジラやマグロの骨などが展示されています。また、勾玉作り(有料)や火おこし(無料)なども体験することができます。

【開館時間】9:30～17:00  
【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始  
【入館料】無料  
【お問合せ】鳥取県米子市福市461-20/TEL.0859-26-3784



39

## 因幡地域

### 因幡の旧石器時代・縄文時代

鳥取県東部に位置する因幡地域では、これまでに確実な旧石器時代遺跡は確認されておらず、鳥取砂丘などで尖頭器類が採集されている程度です。ただし、因幡地域に接する兵庫県西部や岡山県北部では、畠ヶ平遺跡（兵庫県新温泉町）や恩原遺跡（岡山県鏡野町）において、まとまった石器群が見つかっています。今後、因幡地域においても、旧石器時代の遺物や遺跡の層位的な発見が期待されます。

因幡地域における縄文時代遺跡は、当時の海岸線付近や山間部などを中心に、広範囲に分布しています。特に、内湾の名残である湖山池周辺には、桂見遺跡や青島遺跡（いずれも鳥取市）などが連なっています。

鳥取砂丘の背後には、国の重要文化財に指定された木製杓子や編物が出土した栗谷遺跡や、直浪遺跡（いずれも鳥取市）があります。また山間部に位置する智頭枕田遺跡（智頭町）では、県内最大の縄文時代集落が営まれていました。出土遺物も縄文時代草創期から晩期まで多岐に渡り、また山陽や九州といった地域の土器も見られることから、断続的に他地域との交流があったと考えられます。

#### ●現地見学可能な遺跡



## 因幡地域

国  
指  
定

### くりたにいせき 栗谷遺跡〔低湿地で残った貴重な木製品〕

鳥取市

鳥取砂丘の内陸部で細川池と呼称されていた潟湖の南端に位置し、立岩山山系の丘陵先端部に所在しています。遺跡は昭和36年に発見された後、帝塚山大学による学術発掘調査によって、縄文時代後期初頭を主体とする多量の出土遺物が出土していますが、特に注目されたのは、低湿地遺跡と呼ばれる遺跡であることでした。低湿地遺跡は、人の生活していた環境が土砂に埋没した後、地下水脈から常に水分が補給され続け、更に空気に触れることのない条件が重なることで、有機質の生活用具等が当時のままの形で出土する遺跡のこと、この遺跡でも当時の生活道具が良好な状態で出土しています。

遺跡の本格的な調査は、昭和62年から福部村教育委員会(当時)によって実施された農道改良工事に伴う事前発掘調査で、縄文時代後期前半の貯蔵穴37基が検出され、当該期を中心とした多量の土器、石器、木器、骨角器等が出土しています。この内、特に注目されたのは5点の木製杓子で、2点は完成品、3点は加工途上のもので、縄文人の木製品加工過程を示し、縄文時代の生活様式を知る上で貴重なものであるとして、土器・石器・木製品など65点の出土品が平成6年に国の重要文化財に指定されています。さらに、この遺跡の特徴として、石鏃が多量に出土していることが挙げられます。大半はサヌカイト(安山岩)製で、製品化する過程で生ずる剥片も多く見つかっていることから、当遺跡内で原石から製品に加工されたことは間違いないようです。この石鏃の産地同定を行った結果、香川県坂出市の「金山東」の山頂部で産出されたものとわかり、ある程度の塊の原石が瀬戸内海を渡り、中国山地を超えて栗谷遺跡へ供給されたものと考えられます。

のことから縄文時代から遠隔地との交流が行われていたことを示す物証ともなっています。

【所在地】鳥取市福部町栗谷  
【お問合せ】鳥取市教育委員会文化財課  
TEL.0857-30-8421



木製杓子



栗谷遺跡出土遺物

### すくみなみいせき 直浪遺跡〔砂丘に埋もれた縄文集落〕

鳥取市

砂が厚く堆積した福部砂丘の南後背地で旧湯山池と呼ばれていた潟湖の北岸に位置しています。この遺跡は、昭和22年に発見され、当該例の少なかった砂丘地における縄文遺跡として注目されました。これまで福部村教育委員会(当時)、帝塚山大学、文化庁、鳥取大学によって発掘調査が行われ、縄文時代前期後半の彦崎ZII式土器、中期前半の船元式併行、中期後半の里木式、後期前半の中津式・福田KII式が出土していますが、中期を主体とする土器・石器類が最も多く出土しています。しかし、遺物は出土するものの、定住生活等に関連する遺構等は検出されていないことから、生活拠点は後世に発達した砂丘が厚く堆積し、地中深くに埋まってしまったと考えられています。また、遺物が多量に出土する砂丘の麓には、唯一の湧水地が所在し、四季を通じて旧湯山池に小川が注いでいることから、直浪遺跡に定住していた縄文人の生活用水であったと考えられています。

【所在地】鳥取市福部町湯山字直浪ほか

【お問合せ】鳥取市教育委員会文化財課  
TEL.0857-30-8421



直良遺跡出土土器



直浪遺跡遠景

### かつらみいせき 桂見遺跡〔国内最大級の丸木舟を発見〕

鳥取市

縄文時代の初め頃の湖山池は縄文海進によって内湾となっており、日本海に面していましたが、縄文時代中頃になると徐々に海退が始まり、潟湖に変わっていきます。内湾だった頃の湖山池周辺は採集や漁労活動がし易かったことから縄文時代の遺跡が多く見つかっています。桂見遺跡はその代表例で、縄文時代前期末から晚期後葉にかけて断続的に生活していたと考えられています。発掘調査が行われた場所は後期以前は海進によって大部分が湖沼となっていましたが、後期から晩期にかけては砂洲が発達し、自然河川跡や土坑などの遺構が確認されています。土器類としては前期末葉の大歳山式併行期から晩期後半の突堤文様式併行期の浅鉢・深鉢などが多数出土しています。また木製品ではスギ材やヒノキ材の編み物やケヤキ材の杓子のほか縄文時代後期中葉の2艇の丸木舟がほぼ完形の状態で出土しています。丸木舟はスギの巨木を割り貫いたもので、長さ724cm、幅74cm、深さ35cmの鰐節形と呼ばれるものと、長さ641cm、幅46~70cm、深さ10cmのもので、鰐節形の舟としては国内最大級のものです。これらの丸木舟は鳥取県立博物館で見ることができます。

【所在地】鳥取市桂見字ハツ割・字堤谷

【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター  
TEL.0857-27-6711



丸木舟出土状況

## 因幡地域

県  
指定

### 智頭枕田遺跡〔山陰地域を代表する縄文集落〕

智頭町

智頭枕田遺跡は、鳥取県東部を流れる千代川の支流である土師川と新見川に挟まれた台地上に立地しています。2002、2003年に智頭町教育委員会が発掘調査を実施しました。この調査により、縄文時代草創期から晩期にかけての遺構や遺物が多量に見つかり、山陰地方山間部の縄文時代史を考える上で重要な遺跡であることがわかりました。集落内には早期の竪穴状遺構、落とし穴、集石遺構等があり、また中期末から後期初頭には11棟の竪穴住居が確認されています。中期末から後期初頭の竪穴住居は平面形が隅丸方形をしており、中央の炉跡の左右に屋根を支える柱穴が特徴です。また、晩期になると、石棒などの祭祀道具、東日本系の土器や兵庫県、瀬戸内地域の特徴を持つ土器が出土し、他地域との交流を物語っています。

【所在地】八頭郡智頭町智頭  
【お問合せ】智頭町教育委員会  
TEL.0858-75-3113



智頭枕田遺跡出土の石棒



竪穴建物跡

### 鳥取県立博物館

鳥取市

鳥取県の歴史・民俗、自然、美術を学ぶことができる総合博物館で、考古学分野では旧石器時代から歴史時代までの出土品を中心に展示しています。国史跡鳥取城跡附太閤ヶ平の中にあります。

【主な旧石器・縄文時代展示品】  
槍先形尖頭器、ナイフ形石器、縄文土器、桂見遺跡の丸木舟等

#### 【開館時間】

9:00～17:00(入館は閉館30分前まで) 19:00まで開館

#### 【休館日】

毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、国民の祝日の翌日(土・日・祝日の場合を除く)※ただし、企画展開催中などは休館しないこともあります。年末年始(12月29日～1月3日)

#### 【入館料】

〈常設展示〉一般180円(20名様以上の団体は150円)  
※以下の方は無料です。

●大学生以下●学校教育活動での引率者●70歳以上●障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者

#### 【お問合せ】

TEL.0857-26-8042



### 鳥取市歴史博物館(やまびこ館)

鳥取市

モノが語る、人が語る博物館をテーマにした常設展示は、縄文時代から近現代にかけての資料を中心に、出来事や話題を織り交ぜて展示紹介し、鳥取市の歴史を通史的に学ぶことができます。縄文時代の見どころとしては、国重要文化財に指定されている栗谷遺跡出土品のほか、柄杓目遺跡や小畠遺跡などから出土した縄文土器や石器などを展示紹介しています。このほか調べもの学習や体験的な活動ができるスペースもあり、子どもから大人まで楽しむことができます。



【開館時間】9:00～17:00(最終入館16:30)  
【休館日】毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌日休館)、祝日の翌日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)  
【入館料】〈常設展示のみ〉一般300円(20名以上の団体240円)高校生以下及び65歳以上無料  
〈特別展示〉500円、高校生以下無料(特別展示入館料には常設展示入館料含む)  
【お問合せ】鳥取市上町88/TEL.0857-23-2140



### 佐治歴史民俗資料館

縄文土器や中世の土器皿を中心に佐治町内から出土した遺物を展示しているほか、「因州筆きれず」と呼ばれるみつまた紙の和紙製作道具や辰巳峠から出土した植物化石などを展示紹介しています。

鳥取市

【開館時間】9:00～17:00  
【休館日】土曜日・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)  
【入館料】無料【お問合せ】TEL.0858-88-0218



### 鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県内から発掘された多数の出土品を収蔵し、調査研究を行っています。県内の遺跡に関する最新情報を知ることができます。展示室には、県内で発掘された旧石器時代から歴史時代までの様々な出土品を展示しています。旧石器時代から縄文時代の見どころは、下甲退休原第1遺跡、成叶成林遺跡、名和小谷遺跡等の石器、殿河内上ノ段大ブケ遺跡、桂見遺跡等の縄文土器・木製品、青谷横木遺跡の丸木舟などです。

鳥取市

【開館時間】9:00～17:00  
【休館日】土・日曜日、祝日、年末年始  
【入館料】なし  
【お問合せ】鳥取県埋蔵文化財センター  
TEL.0857-27-6711